

👉 胃 X 線検診を受けるにあたっての注意事項

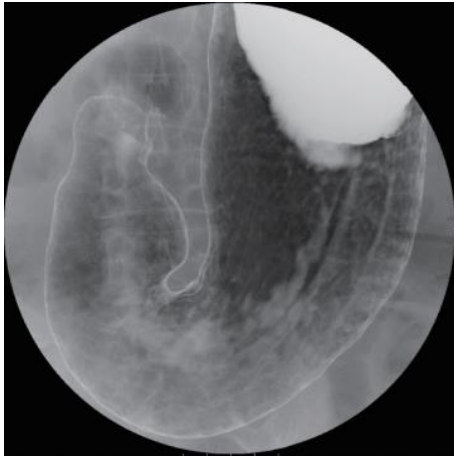
1. 食事

午前中の検査の方は、検査前日の夜 10 時以降から検査終了までは禁食です。

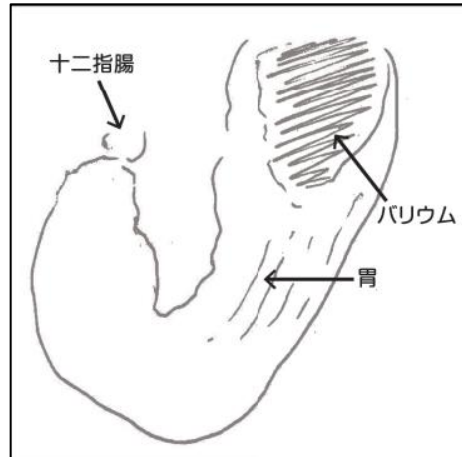
食事をした場合、食べかすが残ってしまい、胃の検査が出来ません!!

また、午後の検査の方は、検査の 10 時間前までに軽めに食事を済ませて下さい。

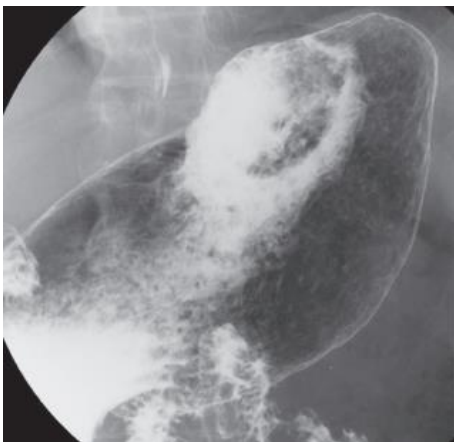
※夜遅くに脂っこい物など多量に食べると 10 時間経っていても消化されない場合があります!



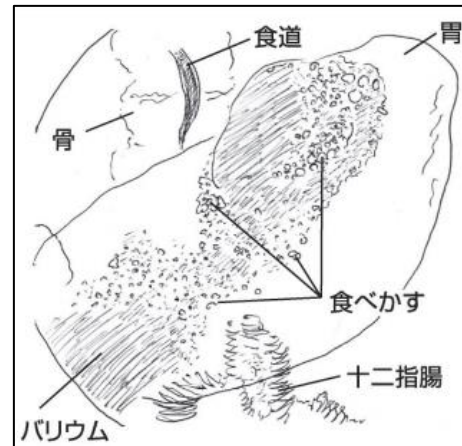
通常の X 線画像



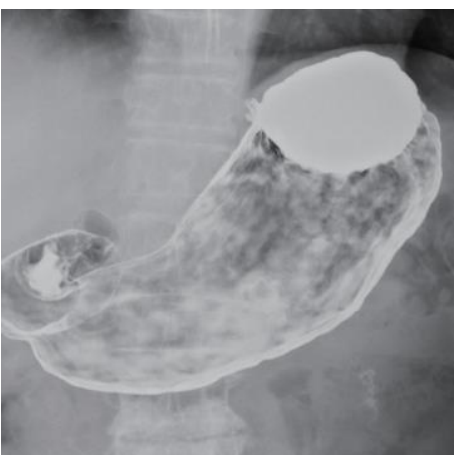
左の X 線画像のシエーマ



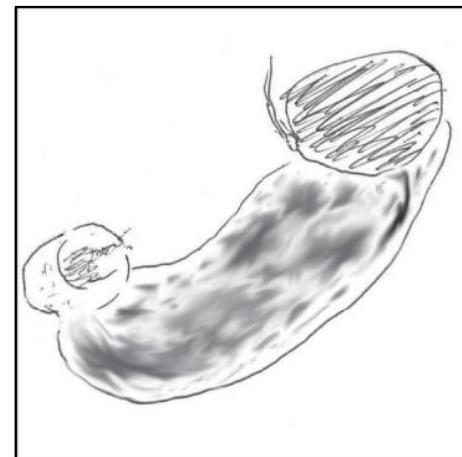
食べ物が残った X 線画像



左の X 線画像のシエーマ



胃粘膜が多い X 線画像
(タバコ、アルコール、入れ歯安定剤など)



左の X 線画像のシエーマ

2. 飲水

前日は、**就寝前までの水分摂取は可能**。(アルコールは不可)

当日の飲水(水、白湯)は、**検査 2 時間前までに 200ml**(コップ 1 杯程度)は可能。

3. 内服薬

高血圧、心臓病のある方は、**検査開始 2 時間前までに 200ml** (コップ 1 杯程度) の水または白湯で内服します。

糖尿病の方は、低血糖になる恐れがある為、検査当日の朝、**内服薬やインスリンは使用しないでください**。

4. 検査をお受けいただけられない方

●絶対的禁忌●

◎バリウム製剤の禁忌

- ・消化管穿孔またはその疑い
- ・消化管急性出血
- ・消化管閉塞または疑い
- ・バリウム製剤に過敏症(アレルギー)のある方

◎妊娠中またはその可能性がある方

◎体重が **120kg 以上**の方 (当施設装置の安全上、お受けいただけません)

◎バリウムコップを自分で持って飲めない方、自力で立てないまたは撮影台の手すりを握ることが困難な方、技師の指示に従えない方

その他、次の安全基準疾患別対応簡易表に該当される既往歴のある方は、事前にお問い合わせください。

バリウム検診時の安全基準疾患別対応簡易表

△ バリウム製剤の禁忌 △

- 消化管穿孔または疑い
- 消化管閉塞または疑い
- 消化管急性出血
- 過敏症(アレルギー)の既往

疾患名		状態	可・不可
消化管疾患	上部消化管疾患	治療中	×
	炎症性腸疾患	治療中(クローン病など)	×
		下痢(炎症のある急性期、下血がある場合)	×
	大腸憩室	憩室炎等の症状がなければ	○
	消化管手術の既往	術後1年以内	×
	腸閉塞(腸捻転)の既往		×
	便秘	高度の便秘	
検査前4日以上以上の便秘(先に診察の上、検査の可否を判断する)			△
検査前72時間排便しなければ要注意とし、下剤多めの服用とリスクの説明をした上で			○
循環器疾患	虚血性心疾患	1年以内に発作あり	×
	心不全	水分制限あり	×
	心疾患術後	術後1年以内	×
	高血圧	180/110 以上(日本高血圧学会によるⅢ度高血圧相当)	×
160/100 以上は高リスクの為、先に診察を行い、医師による検査の可否を判断をする		△	
呼吸器疾患	喘息	発作時、治療中	×
	慢性呼吸器疾患	在宅酸素療法	×
	手術の既往	術後1年以内	×
脳血管障害	脳血管障害	1年以内に発作あり、体位変換困難、嚥下障害あり	×
	頭部手術の既往	術後1年以内	×
		脳圧亢進でシャント中	×
	認知症など	理解困難あれば	×
運動障害	てんかん	1年以内に発作あり	×
	麻痺・疼痛・筋力低下	体位保持 ・ 体位変換困難	×
		手術の既往	術後1年以内
	頸椎・靭帯の治療中	体位変換困難	×
	体型・体形	体位変換困難	×
体重 120 Kg以上		×	
腎疾患	透析中		×
糖尿病	慢性腎疾患	水分制限あり	×
	糖尿病	当日朝治療薬使用した場合(インスリン、経口血糖降下剤)	×
その他	妊娠またはその可能性		×
	アレルギー(バリウム・発泡剤・下剤)		×
	体調不良		×
	腹部手術の既往	術後1年以内	×
	誤嚥	バリウム誤嚥歴あり(誤嚥時対応の困難な方も要注意！)	×
	メニエール病	原則的には不可 当日の状態で判断	×
	高度難聴		×
	食事	当日摂食	×
	飲水	起床から検査2時間前まで200ml以内	○

※上記以外の疾患等の場合でも、医師の判断により不可となる場合があります。

※該当される方は、内科診察時にご相談ください。



胃X線検診こんなかんじ



1.発泡剤を飲みます。



小瓶の中の白い粉をすべて少量のバリウムで飲みます。だんだん胃が膨らんでいき、ゲップが出やすくなります。



検査終了までゲップは我慢しましょう。

2.バリウムを飲みます。

こぼさないように気をつけて全量お飲みください。



3.撮影台に立ちます。

両側の手すり棒を握り、左斜め前を向いて立ってください。台が倒れていきます。

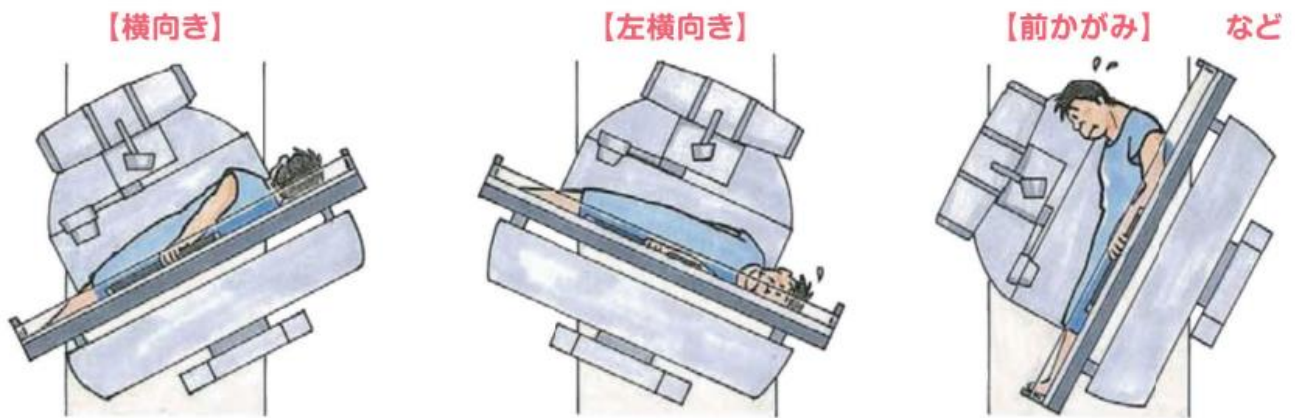


4.右回りに3回、回転してください。



5.いよいよ撮影開始です。

いろいろな体の向きで撮影します。



★手すりをしっかり握りましょう★

6.中ほどに、うつ伏せで頭を下げる姿勢があります。



7.台が立って止まったら検査終了です。



バリウムの飲み方ご存知ですか？

1 発泡顆粒の正しい飲み方のポイント



- 検査の時に飲む白い粒は「発泡顆粒」という胃を空気で膨らませるお薬です。
- 発泡顆粒で胃を十分に膨らませないと正確な診断ができません。
- くちに入れると速やかに発泡するため、できるだけ一気に飲むようにしましょう。

※ しぼんだ状態の胃だと正確な診断ができません。ゲップを出来るだけ我慢してください。ゲップが出そうになったら、ツバを飲み込んでください。

2 バリウムの正しい飲み方のポイント



- バリウムは職員（スタッフ）の指示に従いあわてずゆっくり飲むようにしましょう。
- あわてて飲むと誤嚥（食べ物や異物が気管内に入りおせること）しやすくなります。
- また、あごを引き気味にして飲むと誤嚥しにくくなります。

※ 近年の技術進歩により、バリウムは少量で飲みやすく、また診断精度が向上しています。

3 検査中のお願い



- 胃の粘膜にバリウムを良く付着させるため、撮影中に数回右回転していただきます。
- 頭を下げる姿勢がありますので、手すりをしっかり握ってください。

4 検査後は便秘になることがあります



- 下剤はできるだけ多くの水で飲んでください。
- ※ ジュースやお茶で飲まずに水か白湯で飲むようにしましょう。
- 喉が渴いていなくてもできるだけ多くの水分を摂るようにしましょう。
- 便意を感じなくても定期的にトイレに行くようにしましょう。
- 白い色の便が出ますが、やがて普通の色の便になりますのでご安心ください。

検査後に異常を感じたら、最寄りの医療機関にご相談ください。